



ひっぽたより

NO.11 2016.1.29

この学期に入り、第一回目のおおきい日、マラソンの準備をしていた時のことです。いつものように体操をして各学年ごとに走る位置に着いていた時、おおくりさんは自分たちでスタートの準備をしていました。おおくりさんは大人がいなくて大丈夫だね~と声をかけると「うん!だいじょうぶ!」と全員からの声。木松ぼくさんスタートし時間差でくりさんがスタート。それからおおくりさんの方へ向かおうとすると「大人がいなくて大丈夫で言ひでしょ!」とみんなからの声。「うだた!では、よしへ~」と背中を向けて進んでいると「1.2.3.4...」と自分でカウントし、スタートしていました。この「大人がいなくて大丈夫!」が生活の中に本当にたくさん見られました。なぜ「大人はいらない」と言ってくるわけではありません。子どもたちから「私たちにまかせて!」「私たちで考えよ!」という気持ちを察しています。例えば女の子のあままごとのそばにいて女の子同士のキツイ言葉のやりとりを聞いてしまう時があります。「その言葉かけはきついな~」と思っていても声をかけ耳だけ澄ましています。すると「ちょっと、今の言い方傷つくかも...」と一人が伝えていました。「え? あ、そうだごめん...」するともう一人が「でもこうしたかったんだよな。こういふ言ひ方したらどうかな?」と子ども同士やりとりしています。その時にそこにいる大人が声をかけてしまうよりずっと前に届きます。仲間のひとりとしてその場にいると子どものありのままのやりとりに出会えることがたくさんあります。ちょっと難しいやりとりの時は耳を澄ませ見ていくけど見ていないふり、聞いていくけど聞いていないふりをします。すると「ちょっとするいことをします、するいことをします。でも困って子人がいないう時はスルーします。大人がいるいる指摘するよりも友だちに直接言われた方がいいに届くはずと思っていますから。子どもたちのやりとりをみてると大人を必要としている時や大人が必要な瞬間がリナントくなっていると感じます。こういった事を積み重ねている生活を毎日送っているのでいつもとにかくみんなもこの人たちを信じることができます! ちょっとしたこと気にがつくのです。大人と子どもの距離感を保つには何が大切かはのつかない日々を考っています。その根室にはやっぱり「信じること」があるような気がします。スタッフとしてひっぽの子どもと関わる時だけではなく、母として自分の子どもと関わる時にも感じます。この子のすべてを知っている、知り得なくてはならないではなく、きっと自分の知らない我が子の一画もある。そして子どもには子ども世界がある、そこを自分で考えて、行動をして、友だちに指摘されて、気づき...。時には仲良く、時にはケンカして...。嫌なこともして嫌なこともされて...。毎日毎日ドロドロあります。自分で解決する力は必ずある。話を聞いてほしい時はきっと「あのね、みんな聞いて...」と声をかけてくれます。だから信じて待っています。もうある時自分の子どもが人との関わりで困っているかもしれないというのをよそから耳にしてしまいしばらく困りました。ついに「あのね、お母さんこんなこといつ自己してしまったけど...」とこぼしてしまったのです。するとお母さん、そんなこといつ自己してました? ぼくは大丈夫だよ。」という返事。「そ、か... なんだ。あなたが一人になってしまったんだよ。一人も楽しい時あるでしょ」というのです。しました...。この子を信じていると言つておいて自分で解決する力はあると信じて、慧眼していつの間に余計な事を言つてしまった...と反省しました。自分に似ているところがあつて自分もがくか「ニヒのある壁に当たっている、何とか困難を回避してあげたいと思つたのです。でもそんなこと必要なかったのです。本当に困つていれば「あのね、お母さん聞いて...」と声をかけてくれるはず。大人が解決できることなんてないのに余計なことをしまいました。子どもにとって大人が「必要な時はほとんどないのかもしれない...」とこの時感じたのです。

ひっぽの保育と子育てを重ねつゝこの時大人として大人のすべきことを改めて思つたことがあります。今、この時期これからひっぽを築立していく人たちの育ちをひしひしと感じます。「大人がいなくて大丈夫!」という声を逃さないように毎日を丁寧に過ごしていきたいと思います。

美穂

おおきいくみたより



ほろびひ。アイヌ語で「おおきくなる、おおきい」を意味する「ほろび」+「ひっぽ」。ひっぽの卒園児や在園児の兄弟の希望者が、毎月オ2,4土曜日に8時半から6時半まで、鳥井原の森でたっぱり遊び、闇やりあります。ひっぽで共に過ごして子供たちやそのご家族とのつながりをベースに小学生を対象とした育つあう場をつくりたいという想いから、ほろびひでは4年前に誕生しました。ちょうどひっぽで4年間を過ごして小学生になつた次の学年である今の四年生が川学校に入学(万20/2年4月からスタート)。それから4年が過ぎ、35名の小学生と1名の中学生が、ほろびひの主人公として活動しています。

1月23日(土)、春からほろびひに参加するこども希望する人たちの体験会の日。8人のおおくりさんが、いつもと変わらぬ服装を身につけ、ハッキリ違う場所の見慣れない人も沢山いるほろびひにやってきました。駐車場で車から降りた時の表情は、みんな笑顔だけれども、やはり子どもたちは緊張している雰囲気。駐車場から荷物置き場までの長い道のりを前へ、一步踏み出すくてよう、とためらう。長いなへこん! とやりに大きな声を出します。おおくりさんからすると高学年なんて「見上けるくらいに大きな人」で、よう。そんな雰囲気で、左側に立つた、ひっぽと一緒に過ごした人の姿を見つめ、ほとんどの様子。卒園生で3年生にいた大李くんに「あ! なつかしいへ、俺がおおくりの時たどんぐりたつよな!」と声をかけてみると、うれしき顔。ひっぽに慣ら親しい「崖ナヘリ」が宿まと、後林、行人、徳太、朝次郎は、小学生と一緒に、思ひっきり雪まみれになります。行人「すごいよ! ひっぽの崖よりがて急だよ!」と大興奮し、後林「わこさんは無理でよ?」とハッキリの後林のまま。

年長児と1年生合同の「おはようミーティング」では自己紹介。1年生と言ひはまつぼうく時代に週5日間一緒に過ごした人たちが、ほんとうにいえ、沢山の人たちに注目され、いよいよキドキに声が出來るのも当然でしょう。ここが「ナツフバッタ」の陽麗が「あらひひより」です。よろしくお願いします。とにかく自己紹介すると、それから降り立つ「0000」です。よろしくお願いします。と続々、徳太は「中部小学校へ行くのはらゆうたです、よろしくお願いします。」と堂々とあります。自由なあとでか始まる、ひっぽと同じように子どもがやりたいあとでやりたいように、兄弟がいる人たちも、そこへ寝ることなく自分の時間を使っています。朝次郎と明日香は2人でビールケースを使ひながら雪の家づくり。そこだけを切り取るとひっぽの様子と変わらない感じですが、ここに2年生男2人がひたすらやつて来て、お家で壊されてしまいシヨン...。朝次郎と明日香のその様子に、2年生男子も「しまった...」と泣き表情。こんな手荒い歓迎とも言えます。わたし外人たから、「わたしも英語で話しての」という不思議な設定。2年生女子3人のごくごく普通に「私は一人で混じりたてあんでいます。陽麗、理央子は1年生の遼香の先導で崖を降り、川沿いを歩き「南の森」と呼ばれる場所まで探検。遼香にはほろびひの渠、いこいと紹介(こもりいががる、雪深、森を案内してもらつて)ました。16時半までのほろびひ。ひっぽより2時間半を長い。お食い飯の後、たつぱりおさんもおおきな時間は残っています。理央子「まだ、おやつも食べられましたよ!」と長い一日を満喫。週明け月曜日おおきい日の朝。「ほろびひ、どうだつた?」と声をかけながら「たのしかつた!」「絶対にほろびひに行く!」と明るい声が近づいて来たのは言うまでもありません。

「おおくりさんたち、どんなふうに過ごのかな...」と少し心配もしていたのですが、一日通じて安心して見守っていました。「ひっぽ」という自由でつながる異年齢の子どもたち。そのおとびや、肉のつながりながら、自分自身への信頼、他人への信頼、自由というものに向かう姿勢... そんなことをつけて、あれやこれや考えた一日でした。

(文中敬称略)

慎之介

お知らせ

ほこりっぽかった、ひびきの森にやとたつぱりの雪が降りました。いきなりの積雪に子どもたちは大喜び。雪かきが間に合わず、たくさんの方のたくさんのお手伝い…本当にありかとうござります。一日外が過ごしている子ども達の姿は、野外保育を行っている園の中では珍しいようです。

- 保護者会 日時 2月3日(水) A.M. 9:30~
場所 ベイブル・メインホール
- えりんこたいそう 2月17日(水)
身長計測 同上
- 建材が不足しています。ご協力をよろしくお願いいたします。
- 今年度も じゅんやさんの 団体登録代金 (2015.12月~2016.11月) を納入箱にて ご請求させていただきます。よろしくよろしくお願いいたします。
- わわくさんとスタッフだけの冬のキャラを 2/22(月)~23(火)に行います。わわくさんには、詳しいお知らせプリントを配布いたします。22(月) 23(火) とては、通常の保育を行います。ぐりさん、松ぼっくりさんは、いつも通りです。
- わわくさんの 和解日は、2/25(木)です。
- 延期になってしまったぐりさん・わわくさんの 電車の旅は 2/29(月)に行います。近くに便利な所は、子ども達とお話し合います。準備では、プリントを再度お読みいただけます。ご協力をよろしくよろしくお願いいたします。
- ぐり・わわくの 追分散策 2/1(月)(予備日 2/4)を予定しています。

ひびきの森の木の芽たち ~1月コラボ 車両~

今月の木の芽は軽井沢町の木にもたなっている“ニブレ”です。ふわふわの白銀の芽で冬の間もとても美しい姿です。早春にどの木よりも咲きがけて、真っ白な花で春をひげます。私がニブレを知ったのは小学生の時、「春のくまたち」という神沢利子さんの童話でした。ニブレを食べたりぐみたち、春を迎える喜びが満ちていて、とても大好きで印象的な話をしました。短いお話をなので、ご紹介したいと思います。

『山にニブレの花が咲きました。くまのがあさんは冬ごもりのあたからでたはかり、ニブキの子ぐみは生まれたばかり。木のめ、草のめ、かあさんはおいしいものをさがします。空が明るくてまぶしくて、足のからがくすぐるだけて、子どもたちはくろくろわらいます。かあさんは木にのぼります。なんじょうすがにと。ほら、もうあんたよにたかいいとこ。青空にゆれるニブレの花をたべてます。子どもたちは「さあお食べ」とおとしてやります。子どもたちはもしゃもしゃべちゃべちゃ花を食べます。子どもたちの上に花は雪のようにおちてきます。たべあさた子どもたちはニンドウニコニコおさもうご。かあさんはゆくり木からおりてきます。子どもたちはもうすぐ大きくなるで。木のぼりでひとりでたべものを採ります。』

おや、空にひとつ、たべのニシの花。それは白いひらのお月さまです。今月の月中で日はるニブレとくまたち。また春には、ニブレの花開く姿をみられますよ。:菜々原

